

南山の風

★海水浴 in 小野浦★

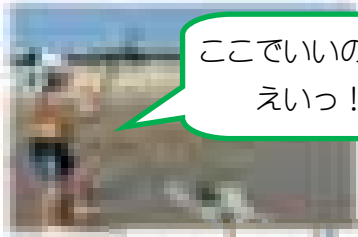
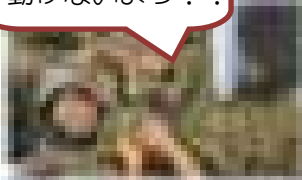
オリオンの子どもたちと職員は、8月4日から1泊2日で海水浴へ行ってきました。太陽が味方してくれたのか、良いお天気の中で楽しい夏の思い出を作ることができました。



広くて深い海ではすぐに足がつかなくなってしまい、不安を感じる子どもたちでしたが、慣れてくると職員から少し離れて遊べる子もいました。まだまだ「怖い」と感じる子どもたちも、浮き輪をつけてぶかぶか♪ ピチャッと顔に水がかかると「しょっぱい!」と言いながらも楽しそうでした。

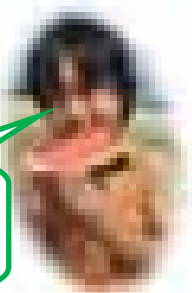
海と言えば、楽しいのは水の中だけではありません。始めは足だけだったのが、顔だけ残して全身を砂に埋められてしまう子もいました。スイカ割りでは、しっかり目隠しをしていざ出発! 周りから「右! 右!」「もっと左だよ!」と、大きな声が飛んでくる中で見事命中! みんなでおいしく頂きました。

う〜ん重い!
動けないよう!!



ここでいいのかな?!
えいっ!!

いつもより
おいしい〜♪



夜ごはんはエビフライカレー♪
たくさん遊んでたくさん笑った後の
ご飯は最高!



初めての場所、慣れないことなど、色々なことに楽しく挑戦できた2日間でした。

(文責: 指導員 高橋結希)



子どもサロン小3プール



出発前から準備万端でプールの用意を背負い部屋の中をうろろう。それ程楽しみにしていたようで朝から「何時に出発するの?」「ま〜だ〜」と待ちきれない様子。

瑞穂プールに到着すると「プールだ!」「着いたー!」と大はしゃぎ。普段の2倍のスピードで着替えを済ませ、水の中へすかさずダイブ!

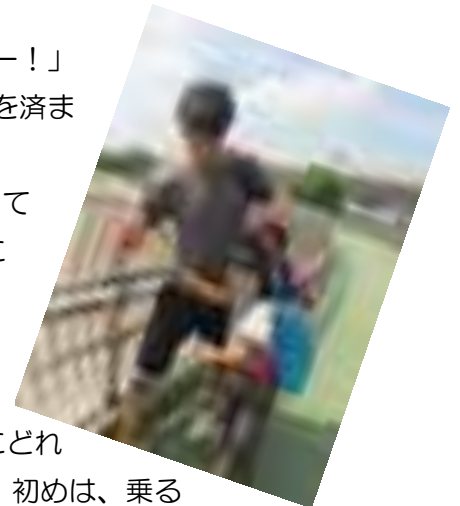
職員の肩に捕まりお散歩したり、浮き輪に乗って水の掛けあいをしたり、130cm以上の滑り台に「だいじょうぶかな〜?」と心配しながら並び、滑り台から豪快に滑り降りたりと3時間の遊泳時間を満喫しました。

その中で、一番人気だったのはビート板の上にどれだけ乗っていただけるか、Let's サーフィン! 初めは、乗る

こともままならず、ビート板の上から転げ落ち、ビート板に乗るといよりも水の中を転げまわっているというような状態でした。それでも黙々と練習を重ね、コツを掴んだようで10秒、20秒と乗っていただけるようになりました。コツを聞いてみると「バランスが崩れそうになったら、一度潜って体勢を整えること」だそうです。プールに行った時には一度挑戦してみてください。

昼食はバイキング形式だったので、どの子ども好きな物を少しずつ取り、沢山のおかずを食べることができ、ワッフルを自分の手で作ることが出来たので「これ美味しそうでしょ」「いっぱい食べた!」「おいし〜い」とご満悦の様子でした。昼食の途中で「もう一回プール行く!」という声も上がる程充実した一日を過ごせたようでした。

(文責: 指導員 大島 菜月)



交流花火会

7月31日にロータリーを貸切り、手持ち花火と噴射型の花火で、高齢者施設南山の郷との合同花火大会をしました。

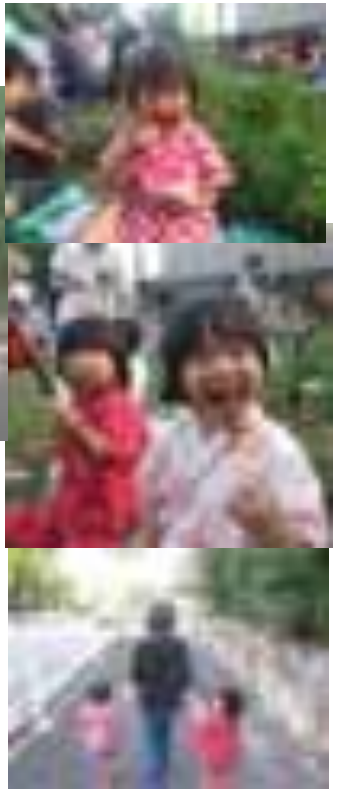
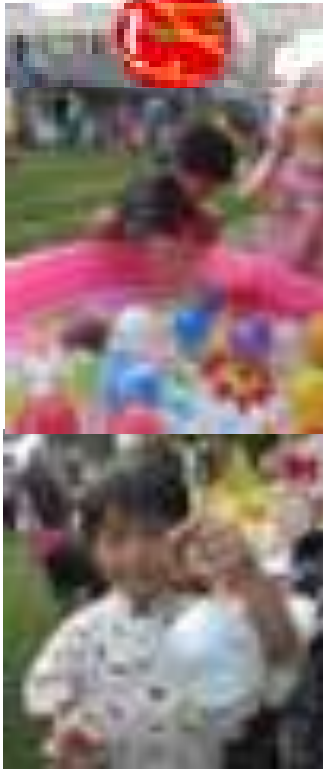
南山寮の子どもたちは「おばあちゃん、花火だよー。」と特養の方たちにも花火を見せてあげ、利用者さんたちを笑顔にしていました。噴射型の花火は大量に用意されており、着火する職員が花火の熱さと闘った甲斐もあり、みんなでキレイな花火を見る事が出来ました。

子どもたち、利用者さんにとって良い思い出がまた一つ増えました。

(文責: 指導員 浅井祐哉)



ルンビニー祭り



南山ルンビニー園からお祭りへお誘いがありました。盆踊りに始まり、ヨーヨー釣りや輪投げ、お団子にかき氷と盛りだくさんで子どもたちもあちこち遊びまわっていました。バザーや腕相撲大会などが開催されており、大人も子どもたちと同じく楽しめました。大人も子どもも笑顔になる素敵なお祭りでした。

(文責：保育士 妹尾善之)

みなみやまさんとおやつ

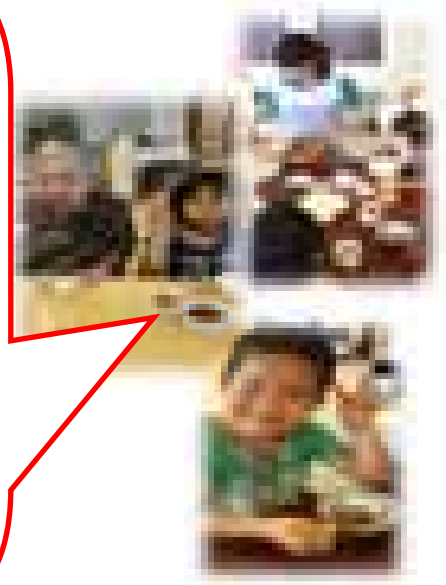
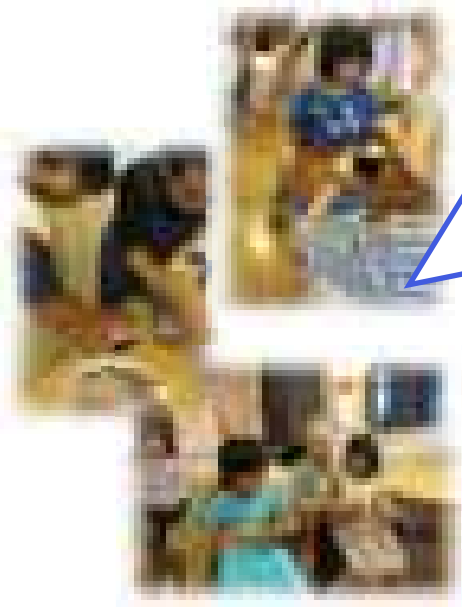
食べました！



第一回目はかき氷と一緒に食べました☆
最初は緊張していた子どもたちも、おじいちゃん・おばあちゃんと楽しくかき氷を食べましたー！！

第二回目は牛乳寒天と一緒に食べました☆
味は牛乳と「ココア」でとっても甘くておかわりを何度もし、お腹いっぱいになりましたー！
ごちそうさまでしたー！！

(文責：保育士 黒田純子)



野球の部は、他施設との連合チームで南山寮からは5名の中高生男子が参加しました。

ソフトボールの部は、女子3名・男子小学生7名の計10名で参加しました。

【写真】黒いユニフォームが野球、赤いユニフォームがソフトボールです。



野球は少ないチーム数とじ運のおかげで初戦を勝利し、いきなり決勝戦へ。決勝では、優勝候補の施設と対戦し、0対6で敗れはしたものの、とてもしまった内容の好ゲームでした。出場した児童の中には高校3年生もあり、その子にとっての最後の良き思い出となったことでしょう。

第 62 回 児童福祉施設スポーツ大会 in 大高緑地
(平成27年8月19日(水)、21日(金))



ソフトボールは本番前に練習や練習試合をたくさん行いました。ミーティングでは、チーム目標「声の掛けあえる守備の強いチーム」を決め、その目標に向かって、練習や試合に取り組みました。

本番では負けてしまいましたが、失敗を恐れず声をかけあいプレーしたことは大きな成長でした。

野球やソフトボールを通じて短い期間ではありますが、技術面はもちろん、気持ちの面でも大きな成長をすることができました。ソフトボールの子どもたちも誰一人「もうやだ」と否定的な言葉はなく前向きでした。弱小チームではありますが、「まずは一勝」を目標に来年も頑張りたいです。

(文責:保育士 北雄二)



福祉絵画展表彰！



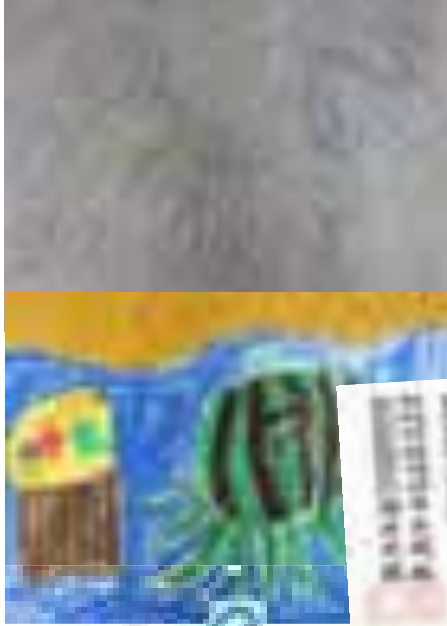
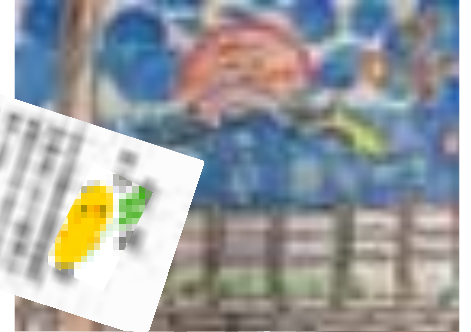
宮城「小学生のK君の」「せがお
ました。その他、幼児のN君の「竜
で小学生のS君の描いた「すいかの
タ」宝をばっけん」が見事入選し

入選1名、佳作4名

今回で第32回目を迎える福祉施設
絵画展の表彰式が行われました。南
山寮からも37名の子どもたちがエ
ントリーしました。その中

なじタンポポ、
R君の「カブトムシ
とクワガタに囲まれ
て」、中学生のHさんの「ユカリの

結晶」が佳作に選ばれました。
みな、画用紙いっぱい
いに力強く描いていて、と
ても素晴らしい作品揃いで
した。(文責：妹尾善之)



ビジネスマナーを学びました♡

夏休みも終盤に差し掛かった8月26日。中2女子2名が、プライダ
ルジュエリーを取り扱う「ラザールダイヤモンド名古屋」にて開催され
た職業体験に参加しました。プリモジャパンの湯浅さんから、働くとき
のマナーや、お辞儀の仕方、挨拶や言葉遣いについて、丁寧に指導して
頂き、子どもたちもいつになく緊張した面持ちで講義を受けていました。(笑)

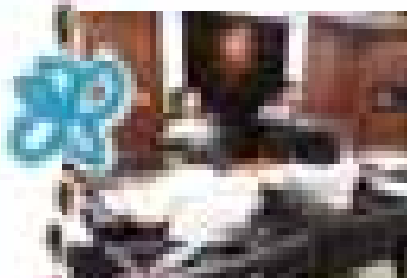
この体験では、世界で3本の指に入る高級ダイヤモンドを実際に見て、触れる機会もあり、子
どもたちも眩い光を放つダイヤモンドを前に、一気にテンションアップ！！

(実際のところは、職員の方が子ども以上に興奮していたという.....(苦笑))

講義後は、子どもたちが店員さんになり、いざ、接客！！講義内容を思
い出しながら、一生懸命、社員さんや引率の私に似合う指輪を選び、馴れ
ない(?)敬語を駆使しながら、接客してくれました。彼女たちが社会に出
るのはまだ先の事ですが、この体験で学んだ対人マナーを日常生活で活か
して欲しいと思います。

*注：この企画は、NPO法人ブリッジフォースマイル様よりご案内頂き
ました。

文責：主任 北村 清美



八事杖中ふしぎ散歩 ⑥

再び立てられた道標「是よりあつたちか道」

八事山興正寺の総門前に「是よりあつたちか道」という明治34年に建立された石碑があります。この石碑はかつては飯田街道の興正寺に近い道角に建っていました。現在の応路町石坂を抜けて熱田神宮に到る「あつた道」があったとのこと。交通の便の悪かった当時、歩いて旅をする人、熱田神宮に参拝する人のために近道を示したものでした。さて、この石碑は今年になって現在地に設置されました。どういう経緯かわかりませんが、昨年までは、大日堂前にある石材置場に「是よりあつたちか道」の石碑が横たわっていて、郷土歴史研究家の間では貴重な石碑の行く末が話題になっていました。いずれにしても、歴史的文化遺産ともいふべき道標が再び興正寺の門前に建てられたのは喜ばしいことです。



コラム 南山隼人

原爆孤児を育てた浄土真宗僧侶

今年の夏は「戦後70年」という言葉が日本を駆け巡った。「史上初めて核兵器が使用され、しかも戦闘員ではない無辜の民約20万人が一瞬にして焼殺された」という、全人類が未来永劫忘れてはならない惨劇が、70年前に起きたことを意味する。空襲を受けた大都市部では、親を失った浮浪児が溢れて、大きな社会問題となったが、原爆が投下された広島の子どもたちはどのような状況だったのだろうか。

原爆が投下された当時、郡部の町村に集団疎開していた広島市の学童のうち、両親を亡くした子どもたちは、2千人とも6千人ともいわれている。また、広島市内で生活を共にしていた両親を亡くし、辛うじて生き残った被爆孤児も数多くいた。この両者を合わせて「原爆孤児」という。頼る親戚もない孤児たちは、たばこのすいながら拾ったり、靴磨きなどをして暮らした。そういった孤児を収容するための孤児収容所が5箇所できたものの、多くの孤児を抱え、物資や資金も思うように集まらず、食糧の確保が収容所最大の悩みであった。そのため、孤児は農作業や地引き網、貝掘りなど、できることは何でもして、食べられるものは何でも食べたという。

広島市の原爆孤児を積極的に支えたのが、浄土真宗本願寺派の僧であり、社会党の参議院議員でもあった山下義信氏だ。原爆で親を失って行き場のない孤児たちが、焼け跡をさまよっているのを見て心を痛め、夫人と共に一人二人と引き取って育てるうちに80人を超えたため、被爆2カ月後、広島戦災孤児収容所を設けた。物資の乏しい時代に、育ち盛りの84人を養うのは容易でなかったが、山下氏は寄付を募らず、私財をなげうち、喜捨の申し出は受けるという運営を貫いた。そして、夫妻自身は爆心地に近い広島市基町のバラック建てに住んだ。その自宅を足場に昭和22年、第一回参議院議員選挙に出馬して当選、昭和34年に政界を引退するまで12年間にわたって社会福祉行政の大切さを訴え続けた。政治活動の傍ら、山下氏は育成所の中に「童心寺」という堂宇を建て、子どもたちが亡き肉親を偲ぶことのできる場とした。子どもの中に「お坊さんになれば亡きお母さんに再会できる」と信じて、出家を希望する者が3名いた。その3名は後に龍谷大学に学んで僧籍を取得し、うち2人は本願寺派、もうひとりは大谷派の寺院に婿養子として迎えられたそうだ。

「戦後70年」が教えてくれるもの。それは、「戦争」という大きな社会状況の変容は、社会で最も弱く、本来大切に守り育てられるべき存在である「子ども」に対して、最も激しく劣悪な影響をもたらすということ。その現実を、大人たち一人ひとりが再認識し、心の中に築いた「平和の砦」を、次の世代へと継承し続けていかなければならないということ。そして、いまこの瞬間も、世界のどこかに、戦火に巻かれ、恐怖に怯え、命のともしびを奪われかねない子どもが存在するのだという真実を、決して見過ごしてはならないのだということ。(リョウウチョウ)

平成27年 9月号

(月刊：毎月1日発行)

<明治19年10月 第三種郵便物無認可>

発行：社会福祉法人 愛知育児院

児童養護施設 南山寮

編集責任者：施設長 山田 勝己

〒466-0835 名古屋市昭和区南山町5番地

TEL (052)831-3750 FAX (052)835-7483

e-mail: nanzanryo.1909@space.ocn.ne.jp